



Title	Prevalence of Metabolic Syndrome and Its Components among Japanese Workers by Clustered Business Category(内容・審査結果要旨)
Author(s)	日高, 友郎
Citation	
Issue Date	2018-03-21
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/755
Rights	
DOI	
Text Version	none

This document is downloaded at: 2020-01-06T12:26:36Z

論文内容要旨

しめい 氏名	ひだか ともお 日高 友郎
学位論文題名	Prevalence of Metabolic Syndrome and Its Components among Japanese Workers by Clustered Business Category (産業業態別にみた日本の労働者におけるメタボリックシンドロームおよびその構成要因の有病率)
<p>本研究はビッグデータを用い、産業業態別の日本人労働者におけるメタボリックシンドロームとその構成要因の有病率を明らかにすること、ならびに有病率の特徴を明らかにすることを目的とした断面研究である。</p> <p>日本を代表する保険事業者である全国健康保険協会より約12万人の労働者の匿名化データ提供を受け、それぞれの被験者が属する産業業態にしたがい健康診断結果ならびに質問票回答結果を分析した。肥満・高血圧・耐糖能異常・メタボリックシンドローム等、健康診断で発見された異常が記録された。全ての被験者は「北米産業分類システム」(The North American Industry Classification System; NAICS)に基づき、18種の産業業態に分類された。メタボリックシンドローム診断基準検討委員会(2005)の基準に基づき、産業業態別のメタボリックシンドロームおよびその構成要因の標準化有病比(Standardized Prevalence Ratio; SPR)を計算するとともに、SPRの95%信頼区間を算出した。次に、メタボリックシンドローム構成要因のSPRに基づいて階層的クラスター分析を実施し、男性・女性ごとに、18種の産業業態をさらに3クラスターに分類した。</p> <p>以下の産業業態はメタボリックシンドロームのリスクが有意に高かった。男性については、建設業、運輸業・郵便業、学術研究・専門技術サービス業、複合サービス事業であった。女性については、医療・福祉、複合サービス事業であった。クラスター分析の結果、男女それぞれについて、メタボリックシンドローム構成要因の有病率が他よりも高い、特徴的なクラスターが示された。男性については、製造業、運輸業・郵便業、金融業・保険業、複合サービス事業で構成されるクラスターであった。女性については、鉱業、運輸業・郵便業、金融業・保険業、宿泊業・飲食サービス業、複合サービス事業で構成された。</p> <p>これらの知見は、メタボリックシンドロームに関する健康指導や健康支援を提供する際に、産業業態と性別ごとの、メタボリックシンドローム構成要因および有病率の多様性を考慮しなければならないことを示している。</p>	

※日本語で記載すること。1200字以内にまとめること。

学位論文審査結果報告書

平成30年1月4日

大学院医学研究科長 様

下記のとおり学位論文の審査を終了したので報告いたします。

【審査結果要旨】

氏 名 日高 友郎

学位論文題名 Prevalence of Metabolic Syndrome and Its Components among Japanese Workers by Clustered Business Category
(産業業態別にみた日本の労働者におけるメタボリックシンドロームおよびその構成要因の有病率)

本研究は、全国健康保険協会の約12万人の労働者の匿名化されたビッグデータを用いて、日本人労働者におけるメタボリックシンドローム、及び、その構成要因の有病率を、産業業態別に明にすること、さらに、その有病率の特徴を明らかにしたものである。

学位審査会において、産業業態別にメタボリックシンドロームのリスクに有意差がある点について、因果関係の説明ができるかの質問については、本研究が横断研究であるため、因果関係を論ずることは困難であるが、業態別のリスクの違いから推察していくことが可能であるとの回答であった。また、本研究知見の今後の活用について、メタボリックシンドローム構成要因および有病率の多様性を配慮した健康指導や健康支援を提供する際の具体的なアイデアについての質問については、すでに、産業業態や性別を考慮した健康指導や健康支援に生かされている旨の回答があった。

本研究は、著明な英文ジャーナルである PLoS One に2016年に掲載されており、すでに一定の評価がある。

以上、本研究は、従来のメタボリックシンドロームではあまり着目されていなかった産業業態別に、ビッグデータを用いて解析しており、その分析方法や、結果の解釈、考察も、適切であると判断される。今後の発展性が大いに期待できる研究であると判断した。

本委員会として、申請者が学位審査に合格したことを認めるものである。

論文審査委員 主査 安村 誠司

副査 島袋 充生

副査 黒田 直人